

令和2年（2020年）の硫黄島の火山活動

気象庁地震火山部
火山監視・警報センター
沖縄気象台地震火山課

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しています。

○ 噴火警報・予報の状況、2020年の発表履歴

2020年中変更なし	噴火予報（活火山であることに留意）
------------	-------------------

○ 2020年の活動概況

・ 噴気等表面現象の状況（図2、図3、図4、図5）

気象庁が実施した海上からの観測、及び第十一管区海上保安本部が実施した上空からの観測では、島の北側に位置する硫黄岳火口や島の中央部に位置するグスク火山火口から、従来から認められている少量の噴気が観測されました。1月14日の観測では、硫黄岳火口の西側海岸線に沿って変色水が認められました。風下側では強い硫化水素臭を感じられました。



図1 硫黄島 火口位置、噴気位置、変色水域位置

この資料は気象庁ホームページ（https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧することができます。

この資料は第十一管区海上保安本部のデータを利用して作成しています。

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『電子地形図（タイル）』を使用しています。



図2 硫黄島 グスク火山火口の状況

- ・島の中央部に位置するグスク火山火口では、1月には噴気は認められませんでした、11月には従来から認められている少量の噴気を観測しました。



図3 硫黄島 硫黄岳火口の状況

- ・島の北側に位置する硫黄岳火口では、従来から認められている少量の噴気を観測しました。



図4 硫黄鳥島 硫黄岳南西側の変色水域の状況（1月14日）

- ・硫黄岳火口の西側の海岸付近で変色水域を確認しました。



図5 硫黄鳥島 硫黄岳火口内の状況（11月17日）

- ・硫黄岳火口内で引き続き白色の噴気が確認されました。